

令和5年度第2回いちのせき健康の森運営委員会 会議録

- 1 会議名 令和5年度第2回いちのせき健康の森運営委員会
- 2 開催日時 令和5年11月8日（水） 午前10時から午前11時20分まで
- 3 開催場所 北上川学習交流館「あいぽーと」
- 4 出席者
 - (1) 委員 千葉正委員（委員長）、佐藤加奈子委員（副委員長）、千葉真由美委員、平野和彦委員、阿部眞委員、菅原清忠委員、船山賢治委員、菊地美津子委員
※欠席者 河合純子委員、佐々木承子委員
 - (2) 事務局 伊藤信子いきがづくり課長、齋藤友香いきがづくり課主事、佐藤可安いちのせき健康の森所長、小國友也いちのせき健康の森副所長、千葉忍いちのせき健康の森総務管理課長、菅原寛いちのせき健康の森研修課長、菅原美智子いちのせき健康の森総務管理課員
- 5 議 題
 - (1) 令和5年度上期経過報告について
 - (2) 令和5年度下期運営計画について
 - (3) その他
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者の数 0人
- 8 挨拶
 - (1) 伊藤信子いきがづくり課長

本日はお忙しいところ、お集まりいただきありがとうございます。今年度の上半期を振り返りますと、いきがづくり課の事業である英語の森キャンプという、中学2年生を対象にALTを交えて英語だけの会話で2泊3日を過ごす事業がございました。新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類になったこともあり、昨年の27名参加に対して、今年度は53名の参加と倍増しております。また、今週末には小学生対象の英語の森キャンプの開催を予定しており、子ども達にとって、思い出深い楽しい事業にしたいと考えております。

本日は今年度上半期の経過報告と、これからオープンする祭時スノーランドを中心とした下半期の計画について説明いたします。委員の皆さまには、いちのせき健康の森の運営管理や、スキー場の安全管理など、様々なご意見を頂戴したいと思いますの

で、よろしくお願いいたします。

(2) 佐藤可安いちのせき健康の森所長

本日はお忙しいところ、お集まりいただき大変ありがとうございます。上半期の4月、5月に開催した自然観察会ですが、例年に比べ気温が高いこともあり観察する花の見頃が過ぎておりましたが、いつもの時期と違う植物の観察ができたなど、参加者には楽しんでいただけました。6月から9月にかけては、熱中症やゲリラ豪雨、熊出没などの心配な事柄も多くありましたが、利用者の方々と情報共有しながら安全に対応できました。

さらに子ども達に一番人気の沢遊びですが、少し増水した沢でも楽しんでいる姿を見ると、自然の怖さや楽しさなどを経験して、また違う環境で様々な応用に活かしてもらえればよいのかと思っております。これから上半期の報告と下半期の計画について説明いたします。皆さまには様々なご意見を頂戴してまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

9 審議事項

(1) 令和5年度上期経過報告について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 今年度統合した花泉小学校の利用はあったか。

事務局 6月に利用があった。

委員 利用者のなかで、スポーツ関係の利用者はどのくらいか。

事務局 高校の部活動合宿やスポーツ少年団の合宿などの利用があり、全体の3割強くらいと思う。

委員 その際の合宿期間はどのくらいか。

事務局 授業等の関係もあるので一概には言えないが、高校の利用は2泊3日であり、スポーツ少年団の利用は1泊2日が多い。

委員 施設周辺で熊の被害や目撃情報はどのくらいあるか。

事務局 被害は出ていないが目撃情報は多くあり、熊自体の数が例年より多いと思う。

委員 他県では建物に侵入したとの話もあるので、熊よけスプレーや同類の備品なども揃えておく必要があると思う。

事務局 最近の熊は人や車に慣れてるように感じる。有事の場合の避難の仕方など利用者を含めて確認作業をしているが、より一層気を付けたい。

委員 厳美小学校では、祭時地区の方に地震当時の話を聞き、防災ボランティアの方々に地震の跡地を案内してもらって震災学習を行っている。健康の森の館内にある資料がとても見応えがあるので、風化させないためにも多くの方にどんど

ん活用してほしい。

事務局 厳美小学校は、岩手宮城内陸地震があった6月14日に毎年震災学習で健康の森を利用していただいている。その後の学習発表会の際に震災学習で学んだことを自分なりに考え発表する姿は、とても有意義であり大事なことと感じる。

委員 自然観察会や野外活動体験の参加者は、リピーターと新規参加者のどちらが多いか。

事務局 おおまかにリピーターが6割強で、残りの約3割が新規参加者である。

委員 市として宿泊室にエアコン設置の予定はないのか。

事務局 予算の関係上、すぐに全部屋に設置するのは難しく、数年に分けて整備する。

委員 ワークーション利用の方は、どのような目的で利用しているか。

事務局 仕事や勉強などの使用を目的としている。

委員 アンケートの食事面でのマイナス評価について、改善やプラスになるように力を入れていることがあれば教えてほしい。

事務局 お客様の意見は、マイナス評価ごとに食堂スタッフに直接伝えている。また、毎月打合せの時間を設け、日々情報交換を行っている。お客様が食事するときに満足していただけるよう、お客様との事前打合せの際に食事に関する情報を提供している。

(2) 令和5年度下期運営計画について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 祭時山について、3月頃は雪が締まっているのでスノーシューを履いて登ることはできると思うが、夏場に登山する場合の登山道はあるか。

事務局 祭時山自体は国有林であるため、森林管理署の管轄となっており健康の森が登山道を整備するのは難しく、今現在、登山道はない。

委員 初めてのスノーボード教室という主催事業の計画があるが、インストラクターについて、まつるベスキースクールとの調整はできているのか。スノーボードを教えられるスタッフが少ないので、少し難しいと思う。

事務局 今年度、初めて行う主催事業のスノーボード教室は健康の森職員が教える予定である。

委員 レンタル業務の職員が2名ということだが、昨年の状況を考えると、週末など職員の人数を増やした方がいいのではないか。

事務局 人件費がかかるので予算的に増員は難しい。昨年同様に週末など人手が足りないときは、研修課の職員がレンタル業務を手伝う予定である。

委員 リフト救助訓練の実施とあるが、その訓練の内容とはどのようなものか。

事務局 リフトが停電などで停止した際に、手作業で下まで降ろす救助手順の確認である。

委員 これまでの営業のなかで、救助が必要な場面はあったのか。

事務局 営業期間中に救助活動を行ったことはない。

委員 具体的にどのようにして降ろすのか。

事務局 レスキューポールという専用の棒を伸ばして、お客様近くの索条（ワイヤー）に引っ掛け、輪になっている安全帯をお客様に渡し、脇の下に通してもらい、ゆっくりと吊り降ろす。機械は一切使わず、全て人力で行う。

委員 スノーシューを準備しているようだが、有料で貸し出す予定はあるのか。また、ゲレンデには多くのスキーヤー、スノーボーダーがいるので、スノーシュー専用のコースが必要ではないか。

事務局 今シーズンは難しいが数がそろい次第、貸し出す予定である。また、コースについては、利用者が減る3月頃にゲレンデ山頂付近から祭時山の麓あたりに行くことを想定している。専用のコースについては職員で何度か歩いて、今後検討したい。

10 担当課 いちのせき健康の森 総務管理課